

平成27年度学校評価アンケート結果の分析

1 生徒対象アンケート結果から

昨年度と比較すると、25項目中11項目で肯定的評価が増加している。

| | |
|--------------------------------|---------------|
| 1 私は、校訓「自主・自律」を意識して学校生活を送っている。 | 80.5% (-1.4%) |
|--------------------------------|---------------|

ここ8年間の肯定的評価の数値を見ると、71.9→69.2→69.2→75.2→76.4→77.1→82.4→80.5%と平成21年に一度落ちた後、徐々に上がり80%程度に落ち着いてきている。

学校の校訓や方針が生徒に浸透しており、校訓を意識して学校生活を送っている様子が伺われる。

数年来におよぶ本校最大の課題である家庭学習について

| | |
|-----------------------|---------------|
| 5 私は、家庭学習の習慣が身に付いている。 | 40.5% (-1.6%) |
|-----------------------|---------------|

この8年間の肯定的評価の数値を見ると、44.9→47.0→46.2→46.9→35.3→40.8→42.1→40.5%となっており、一度も肯定的評価が50%を超えていない。数値が著しく落ちた平成24年は、設問から「宿題」についての記述を外したことが要因。今年度の1年生の肯定的評価数値は21.8%、2年生は41.5%、3年生が58.6%となっており、この傾向は変わらない。全体として肯定的応答が40.5%だが、学年を追うごとに上昇し、3年生においてはかなり上昇するのは自然なことであろう。しかし、それとでもまだ58.5%と、十分な数字とは言えない。そして1年時において、21.8%という状況は、再三指摘されていることだが、憂慮すべき実態である。改善策については、様々な意見があろうかと推測する。学校全体で取り組むべき問題である。差し当たり、新年度に向けてこの3学期に取り組むことは良いタイミングと言えよう。例年、家庭学習の習慣が身に付いていないことが数年来におよぶ本校最大の課題であるが、今年度はさらに下回った。(昨年度比-1.6)項目の記述に誤解があることも考えられるので、「家庭学習の習慣～」から「学校外での学習習慣～(塾での学習等も含む)」に変更すべきか。

| | |
|-------------------------------|---------------|
| 4 私は、授業内容がよく理解できる。 | 69.2% (+2.4%) |
| 6 先生は、生徒が積極的に授業に参加できるよう工夫している | 67.4% (-3.5%) |
| 8 授業は基礎学力の定着に役立っている。 | 79.9% (-6.0%) |
| 7 先生は分かりやすい教え方をしている。 | 72.4% (+1.6%) |
| 11 私は、国分高校の授業に満足している | 72.8% (-0.6%) |

昨年度と比較して特徴的な項目は、「項目8・授業は基礎学力の定着に役立っている」が昨年比-6.0、「項目9・授業は応用力の伸長に役立っている」が昨年比+7.1と、両者が逆転したことである。昨年分析は「基礎学力の定着を意識した分かりやすい授業」の結果、「発展・応用力の伸長をめざす高度な授業が今後の課題」であったが、今年度は逆に「基礎学力があることを前提に、応用力の伸長を意識した授業」の結果、「成績上位層を意識した、やや高度な授業」になっている傾向か。それは「項目10・授業は、知的好奇心を満足させてくれる(昨年比+2.6)」にも表れている。ただ、全体的には「項目11 国分高校の授業に満足している」が昨年比を下回っているため、絶えず教員側が授業改善を意識する必要がある。

項目8、9について、3学年になって、この2つの項目への肯定的応答が減っている事に対する分析は、おそらく各生徒の進路の方向が分化していき、授業全体の構成は自分の進路と直接には関わりが減っていくことによるものと考えられる。

授業に関する評価が低いものが多い。個々の教員が生徒の満足のいく授業を心がけるのが第一であるが、学校としても授業力向上のための組織的な取り組みを検討する時期かも知れない。

| | | |
|----|----------------------|---------------|
| 9 | 授業は応用力の伸長に役立っている。 | 62.8% (+7.1%) |
| 10 | 授業は私の知的好奇心を満足させてくれる。 | 58.7% (+2.6%) |

進路面については

| | | |
|----|---------------------|---------------|
| 12 | 私は、自分の進路を意識して勉強している | 68.6% (-1.8%) |
|----|---------------------|---------------|

1年 55.9%→50.3% 2年 67.4%→68.4% 3年 88.1%→87.7% と1年と3年が若干下がっている。今後も様々な進路学習を通じて、進路について1年次から考えさせていきたい。

3年生が 87.7%という数字を出しているのは、さすがに意識の高さによるものだ。上記5. でも言及したが、1年時からこの意識をもって勉強していくならば、より高いレベルの進路実現が可能となるであろう。このあたりの国分生の取り組みの甘さが伸び悩みの大きな原因だと分析する。

| | | |
|----|-------------------|---------------|
| 13 | 国分高校は進路指導に力を入れている | 81.7% (-2.7%) |
|----|-------------------|---------------|

全体としても 81.7%の高い反応を示してくれているのは、うれしいことである。進路関係の各行事がそういった印象を与えていることは間違いないだろう。

生徒指導・生活面について

| | | |
|----|--------------------------|---------------|
| 15 | 国分高校は生徒指導をしっかり行っている。 | 86.1% (0.0%) |
| 16 | 先生方は、生徒の相談に親身になって応じてくれる。 | 81.3% (-0.1%) |
| 20 | 私は、部活動に積極的に取り組んでいる。 | 84.7% (+1.1%) |

生徒指導に関しては概ね高評価である。校則や社会のルールを守って行動している」など、幾つかの項目で昨年度と比較するとやや減少している回答がみられる。交通安全、盗難防止、インターネット上のトラブルなどにつながる項目でもあるので、来年度にむけて積極的な働きかけをしていきたい。

| | | |
|----|------------------------|---------------|
| 21 | 私は、きちんと清掃活動を行っている。 | 89.6% (+0.6%) |
| 22 | 私は、校内におけるゴミの分別に協力している。 | 90.2% (+1.9%) |
| 23 | 私は、自分の健康管理に十分留意している。 | 87.7% (+3.1%) |

清掃活動、ゴミの分別の数値はここ数年安定して90%前後で推移しており、生徒の取り組みに関しては全く問題なく、極めて良好であるが、1割の生徒は、清掃、ゴミの分別などの美化意識が低いといえる。日々の清掃指導など、日頃からの教室の環境整備をもう少ししっかりとやっていくべきである。

23についても同様で、自らの健康管理については全ての生徒が意識して欲しい。

| | | |
|----|-------------------------|---------------|
| 25 | 国分高校に教育相談窓口があることを知っている。 | 42.0% (-6.5%) |
|----|-------------------------|---------------|

知らない生徒が多い、周知させてほしい。教室内に常時掲示しているのだが、あまり関心が無いのか、切迫した問題がないのか？

| | | |
|----|----------------------|---------------|
| 24 | 私は、国分高校に入学してよかったと思う。 | 90.8% (-1.5%) |
|----|----------------------|---------------|

全般的には、項目 24 のこの高い肯定的評価が生徒の気持ちをすべて表現していると思われる。これらの背景には、勉強のみならず、部活動や学校行事などに積極的に取り組んでいる生徒の姿があり、またそれらを支えている教職員があつてのことだと思う。その辺りを示しているのが次の 5 項目であると考えられる。

学校は生徒が期待している環境を十分に維持できていると判断できる。

| | | |
|----|----------------------------|---------------|
| 2 | 国分高校は、私たちの教育活動にふさわしい環境である。 | 91.7% (+3.5%) |
| 3 | 国分高校の学校行事は充実している。 | 94.2% (+0.9%) |
| 17 | 国分高校のホームルーム活動は活発である。 | 80.1% (+6.3%) |
| 18 | 国分高校の部活動は活発である。 | 93.4% (-1.3%) |
| 20 | 私は、部活動に積極的に取り組んでいる。 | 84.7% (+1.1%) |

2 保護者対象アンケート結果から

昨年よりプラスになった項目が 8、回答率に着目すると、この7年間の数値は、63.2%→74.4%→62.1%→80.6%→85.7%→88.8%→66.6%となっている。保護者のご協力に感謝したい。

学校から家庭への情報伝達という観点で見ると、

| | | |
|---|----------------------------|----------------|
| 1 | 学校は教育方針を分かりやすく伝えている。 | 84.1% (-2.7%) |
| 5 | 学校は家庭への連絡や情報提供をきめ細かく行っている。 | 71.4% (-10.1%) |
| 6 | 授業公開等の学校行事には気軽に参加する雰囲気がある。 | 90.4% (-2.5%) |

5 について、中学校までは連絡ノートなど丁寧な家庭への連絡方法があり、高校にはそれがないので 1 年生は評価が低くなると考えられる。6 については、各学校行事へ参加する保護者が多くおり、保護者の学校行事への参加が、数値の高さにつながっていると考えられる。

| | | |
|---|-----------------------|---------------|
| 2 | 学校の教育方針について共感できる。 | 88.5% (-1.6%) |
| 7 | 学校の PTA 活動は活発に行われている。 | 81.9% (-2.2%) |

毎年、情報がきちんと届かないことが課題となっている PTA 活動においても、肯定的評価が80%を越えており、広報活動の成果と評価したい。

次に、個別の指導および相談という設問では、

| | | |
|---|---------------------------------|---------------|
| 8 | 学校の先生は生徒に対し親身になって指導している。 | 84.7% (+1.5%) |
| 9 | 子どものことで困ったことがあった場合、先生と気軽に相談できる。 | 73.5% (+0.4%) |

この2項目は、自身に該当することがなければ、回答しづらい設問であろう。概ね問題ない数値と言えるが、20の教育相談窓口の周知も合わせて数値を UP する努力をしたい。8 については、全体として 84.7% という高い支持に加え、1年時からほぼ変わらず肯定的な反応を示している。

学習面に対する評価では、

| | | |
|----|------------------------|---------------|
| 11 | 学校では学力向上に向けた授業が行われている。 | 73.4% (-2.2%) |
|----|------------------------|---------------|

「項目 11・学力向上に向けた授業が行われている」が若干昨年比を下回っており(昨年比-2.2%)、授業改善の余地はある。例年、1年の数値が最も高くなる傾向にあるが、これは毎年、新学年は学年開きに際し、学力向上に向けた様々な試みが検討、実施されることに因るものか。

| | | |
|----|--------------------------------|---------------|
| 12 | 家庭学習の時間を確保し、自主的に学習する態度ができています。 | 55.5% (+4.3%) |
|----|--------------------------------|---------------|

低い数値(55.5%)ではあるが、生徒の数値(40.5%)よりは高い数値である。子どもの学校生活全般にわたる肯定感(項目 3 や項目 18)との関連か。

進路面については

| | | |
|----|--------------------------------------|--------------|
| 10 | 1年から3年までの教科・科目は子どもの進路実現に対応したものになっている | 78.7%(-1.4%) |
|----|--------------------------------------|--------------|

1年時の 82.0%から3年時には 75.0%に低下する反応にはどんな理由があるのか。生徒対象アンケートでの分析と重なるが、3年時には個々の進路が個別化し、カリキュラム上無関係と思われる側面がどうしても出てしまうことがあるのではないかと推測する。高校の学習は受験のためにあるわけではなく、特に1, 2年では文理を問わず幅広く学習することを学校として重視していることを周知したい。授業は学力向上に役立たないのか。これは生徒と家庭がいわゆる「塾・予備校」に依存する度合いと同期しているのではないかと推測する。

| | | |
|----|----------------------------|--------------|
| 13 | 学校は生徒の進路目標の達成に向け、適切に指導している | 75.9%(+3.2%) |
|----|----------------------------|--------------|

保護者の肯定的評価は増えているが、2年時に少し落ち込むのはどうしたものか。次年度の科目選択において、自分の進路選択と密接に関わる中で、時間的制約等、今ひとつ指導が行き届きにくい状況があるのではないかと推測する。総合の時間の多くが修学旅行関係に取られてしまうが、2年次の働きかけを工夫していきたい。

生徒指導・生活面について、

| | | |
|----|--------------------------------|--------------|
| 14 | 基本的な生活習慣が身についている。 | 86.3%(+1.8%) |
| 15 | 学校は日常的に頭髪・服装等きめ細かい生徒指導が行われている。 | 68.5%(-0.2%) |
| 16 | 学校は子ども悩みや問題に適切に対応している。 | 74.2%(-0.9%) |

学校生活、部活動、行事、基本的な生活習慣等に関する項目については高評価である。「日常的に頭髪・服装などについて、きめ細かい生徒指導が行われている」という項目の評価が極端に低い。これは学年ごとの服装指導はあるものの、どうしても教員個々の指導に頼ってしまっている現状があり、特に女子のスカート丈、化粧、装飾品、式典などできちんとネクタイをしめさせることなどについて、職員間の共通理解のうえで同じ指導をすることが保護者の期待に応えることにつながるとされる。

保護者の方々も好意的に学校を見てくれている様である。16の「学校は子どもの悩みや問題に適切に対応している。」の割合は低いが、生徒のアンケート 16「国分高校の先生方は、生徒の相談に親身になって応じてくれる。」(81.3%)では高い満足感を得られているので、生徒が直接先生と相談していることがうかがえる。また、学校の発信する情報が上手く伝わっていないようだ。

| | | |
|----|-------------------------|--------------|
| 17 | 学校は清掃美化や環境整備が十分に行われている。 | 77.7%(-1.2%) |
|----|-------------------------|--------------|

清掃美化、環境整備。保護者の数値の理由は不明であるが、おそらくは来校時の印象度と言えるのでは？古い学校のため机・椅子を含め設備面で厳しい評価になったのではないかと推測する。実際、管理棟改修年度は60%そこそままで下がっている。

| | | |
|----|-----------------------|---------------|
| 19 | 学校の Web ページをよく見ている。 | 33.5%(-6.1%) |
| 20 | 学校に教育相談窓口があることを知っている。 | 36.6%(-12.2%) |

IDとパスワードを忘れてしまい見られない人が多数いる。保護者専用のパスワードは十分に伝わっているか？こまめに更新してくれる先生と、しない先生との差がある。更新が少ないなどサイト運営側に問題があると思われる。

全般的には、

| | |
|-------------------------|---------------|
| 18 私は、子どもを学校に入学させて良かった。 | 94.9% (+0.2%) |
|-------------------------|---------------|

総論として、「私は、子どもを学校に入学させてよかった」が95%近く、「私の子どもは、学校が楽しいと感じ、生き生きと生活している」が90%以上あることに、本校への十分な評価を感じる。

また、アンケート結果で上昇があれば、必然的に一定程度のところでは下降する。アンケート結果を受け止めて検証することは必要だが、一方でその数字に対して過剰に一喜一憂し右往左往する態度は戒めたい。成果主義的な観点を優先した教育活動は、教育活動そのものを歪める危険性があり、それに振り回されることは逆にマイナスになると思われる。もちろん、保護者との関係について、必要に応じた十分な説明や対応は極めて重要で、保護者との信頼関係がなければ教育活動が十分機能しないというのは論をまたない。そのための日常的な努力は必要である。

以前のアンケートにあった「判定できない」の回答欄が2年前からなくなった。項目によっては、保護者にとってイエスかノーか判然としない質問も多々あると思われる。PTAの役員など頻繁に学校に来ている保護者ならともかく、回答に窮する内容があるとすれば、「判定できない」の回答があつて自然であるし、この解答欄を設けるべきではないだろうか。

保護者アンケートの回収率を上げることは必要だとは思いますが、生徒にアンケートをもってくるよう強く要求すれば、自分で書いて提出する生徒も出てくるだろう。アンケートである以上、あくまで自然体でありたい。

3 教職員対象アンケート結果から

教職員アンケートは回答数が少ないため、パーセントだけを見て比較分析するよりも何名が肯定的で、何名が否定的な回答を出しているかを踏まえての分析が必要とのことから、集計結果のグラフの数値は人数で示してある。

学校経営に関する項目では、

| | | |
|---|----------------------------------|---------------|
| 1 | 本校の教育活動の情報提供を適切に行っている。 | 94.8% (-3.5%) |
| 2 | 本校は地域社会に開かれた学校づくりを行っている。 | 98.3% (-1.7%) |
| 3 | 本校は学校相互、地域社会、関係機関との協力体制が確立されている。 | 94.8% (+1.4%) |

2は、本校の開かれた学校づくりの取組が理解されているといえるが、3の学校相互、地域社会、関係機関との協力体制の面からはまだまだ取り組めるべきものがあると考え職員がおり、これらの意見を拾い上げたい。

生徒に関する項目では、

| | | |
|----|------------------------|---------------|
| 4 | 本校生徒は、いきいきと学校生活を送っている。 | 87.9% (-0.6%) |
| 10 | 本校生徒の授業態度は良好である。 | 94.1% (+8.1%) |

職員自らの授業取組に対する意識と、生徒の授業取組に対する意識は、ともに肯定感が顕著である。「項目 9、10」対照的に(矛盾するように)、生徒の学力向上と学習意欲の高まりに関しては肯定感が低い。「項目 11、12」「真面目な授業態度にもかかわらず、学力向上が望めていない」状態が検討課題である。

教師は授業においても、指導においてもよく努力している。また、生徒の取り組む様子においても良好な感触を抱いており、両者はうまく噛み合って進行しているのは、大変好ましい日常であると考え。国分高校が教えやすい、生徒も素直な「良い」学校だ、との印象はここで裏付けられているのではないか。

対照的に

| | | |
|----|---------------------------|---------------|
| 11 | 本校生徒は基礎基本を身につけ、学力が向上している。 | 66.7% (±0.0%) |
| 12 | 本校生徒は自学自習の習慣が身につけており…。 | 47.4% (+0.7%) |

11,12の生徒の学習意欲に関しては昨年比プラスの結果であり、これも多様な生徒がいるとの表れである。12は前年比増加しているとはいえ、生徒、保護者、教職員の評価で共通して一番低い項目なので本校の一番克服すべき課題として、さらに対策を講じていく。進路を意識した3年と1・2年では様子がだいぶ違う。しかし、ここに至って、教師から見ると生徒の学力の向上は不十分であり、学習に対する姿勢にはまだまだ改善の余地がある、というのが率直な印象である。

ここが改善されるためには、授業の内容とレベルの設定、進路指導を意識した授業目標の設定が必須ではないかと考察する。単に授業が「うまくいっている」だけでは不足していると考えざるをえない。これらをよく捉えた改善策を今年度内に練る必要を切に感じるものである。

| | | |
|---|-------------------------------|---------------|
| 8 | 本校の教育課程は生徒の実態やニーズに即したものになっている | 77.6% (-4.1%) |
|---|-------------------------------|---------------|

教育課程に関する評価数値が2年続けて昨年比を下回っている。3つの学年の教育課程がそろった今年度の教育課程検討委員会では、見直しの予告程度であったが、来年度以降、検討を始めたい。(改定する場合、大幅な変更ではなく、マイナーチェンジ程度の変更を予定)

まだ、自分の将来の進路に即した学習が身に付いていない。学習に対して、目的が不足がちである。自学自習の習慣が身に付いていない。また、進学校にふさわしい教育課程に改善する余地もある。

| | | |
|----|--|---------------|
| 13 | 本校では1学年から発達段階に即した系統的・計画的な進路指導が展開されている。 | 87.9% (+2.9%) |
|----|--|---------------|

学年によって取り組み方が違うところもあり、学年の裁量も残しつつ、どの学年にも共通する系統的・計画的な進路指導(進路学習)のプログラムを工夫していきたい。

それ以外の項目では、

| | | |
|----|------------------------------|---------------|
| 14 | 本校生徒は、基本的な生活習慣が身につけている。 | 84.5% (+9.1%) |
| 15 | 本校生徒は、自他の人格を尊重し、他人に対する思いやり…。 | 86.2% (-4.0%) |

この2つの項目の評価からも落ち着いた学校の様子が窺える。項目14については保護者の評価も上がっている。

校内清掃に関する項目で、

| | | |
|----|-----------------------|---------------|
| 20 | 国分高校の校舎内の清掃等は行き届いている。 | 72.4% (+8.5%) |
|----|-----------------------|---------------|

校舎内外の清掃。昨年より10ポイント近くアップ。教室及び周辺が学年・担任の指導・努力で行き届いたせいかな？

教職員自身の項目では、

| | | |
|----|--------------------------------|----------------|
| 5 | 学年会は教育活動の計画・実践・評価の場として有効に活用…。 | 96.2% (+10.0%) |
| 6 | 私の学年では、生徒一人一人を大切にする指導が実践されている。 | 98.1% (+8.5%) |
| 16 | 本校の教職員は、共通理解のもと生徒指導に取り組んでいる。 | 72.4% (+5.2%) |

16の8年間の肯定的評価の数値を見ると、70.0→79.6→80.0→67.3→64.2→82.0%→67.2%→72.4%と他の項目より変動が大きい。60名に満たない教員のうち、毎年1割以上は異動する。母数そのものも少ないことを考えると、数字は大きな変動を伴うのが当然と考えられるものの、職員の共通理解の面で評価が低い

のは、以前に比べ十分に議論する場が少なくなっていることが要因ではないか。しかし、とにかく忙しい。各教科の職員室をこえて話す機会も減っている。生徒のこと、授業のこと、行事や部活動、その他諸々、情報交換したり議論したりする機会が減ったことの弊害は大きいと思われる。

昨年度に比し、部活動、生徒会活動に対する評価が低下している。「各学年ごとの生徒一人一人を大切に指導が実践されている」の項目は 98.1%ととても高いので、生徒指導に関しても学年間の共通理解を深めていけば、学校全体としても良い結果につながると思われる。